



# かがやく浜の子

令和2年度7月号

令和2年度重点目標 「チャレンジいっぱい かがやきいっぱい」

## かがや木<sup>き</sup>

都市部を中心に、一日の新規感染者数が警戒宣言前以上となるなど、コロナウイルスは一向に終息の気配を見せません。県内でも、爆発的增加とはなっていませんが、断続的に新たな感染者が報告されています。学校でも感染防止への配慮を怠ることなく、一つ一つの教育活動を進めていく必要を感じています。

こうしたコロナ禍の中で、あらためて感じることは「当たり前」だと思っていたことの「有難さ」です。「『当たり前』の反対語は『有難い』」と言われることがあります。「当たり前」の意味は「当然、常にあるべきこと」、「有難い」の意味は「めったにない」ですので、意味的には確かに反対になりそうです。しかし、日常生活の「当たり前」には、家庭、学校、地域、職場等それぞれの場において、多くの方々による支えとなる務めが日々繰り返されていることを思うと、「当たり前」＝「有難い」ととらえた方が良くように思います。私事ですが、この意識を常日頃から忘れないようにという思いから、校長室の壁の一角には、相田みつお作品集の中の「おかげさん」という一筆の言葉を飾って、自分を振り返るようにしています。



さて、今年度の白羽小学校の重点目標は「チャレンジいっぱい かがやきいっぱい」です。白羽小では、私が赴任する前から「かがやきカード」を使って「友達のよさ」を認め合う活動を行っています。各学級、帰りの会等で、頑張っていた友達、良い行いをした友達を紹介したりカードに書いたりしてきました。さらに、昨年度からは、各学級の「かがやき」を、学校全体で「かがや木（き）」に集約する取組を始めました。今年は、「1学期はかがやきの土台作り」として、各学級で「かがやきカード」が50枚（なかよし学級は20枚）集まると、1ブロック分の土を掲示しています。7月13日現在ですでに全校で19枚のブロック（かがやきカードの枚数にすると860枚分）が集まっています。今後、1学期では、さらにかがやきの土を増やし、2学期には、幹を伸ばし、3学期には、たくさんの実をつけるという活動へとつなげていきます。



「かがやき見つけ」は、子供たちだけではありません。教職員も輪番で、お昼の放送で「かがやき」を紹介し、子供たちに勇気づけのボイスシャワーをかけています。次は、その中の一つです。

今日は〇〇先生が見つけた「かがやき」を二人紹介します。

一人目は、2年生の□□さんです。□□さんは、先生と廊下ですれ違ったとき、止まってお辞儀付きで丁寧に挨拶をしてくれました。低学年とは思えない立派な挨拶でびっくりしました。今、6年生が挨拶で白羽小を引っ張ってくれていますが、それが、低学年にもつながっているところがとてもいいなと思いました。

二人目は、5年生の△△さんです。△△さんは、給食を食べ終わった後、水道の前にこぼれていた牛乳を進んで拭いていました。自分で気づき、考えて行動できていて、さすが高学年だなと思いました。

「かがや木」の取組を継続することによって、浜の子たちに、他者への思いやりや感謝の気持ち、自己への肯定感や有用感が育まれることを望んでいます。（文責 校長）